

## 脱原発分科会

— 「3・11フクシマ」の地から原発のない社会を求めて

### 《脱原発分科会 開催の意義》

3・11福島原発公害発生から3年を経た今日なお、「避難者」は14万人を超え、浜通りを中心に1、150km<sup>2</sup>に及ぶ広大な地域が「無人の地」のままです。さらに県内の大部分の地域は、自然放射線量を超える人工放射線量にさらされ続け、県民が不安と制約の下でのストレスによって3・11以前の平穏な生活を奪われています。

「福島原発公害被害者」の基本要件は、破壊され傷つけられたコミュニティを取り戻すことを基本とする「原状回復要求・完全賠償要求」であるとともに、二度と原発公害の悲劇を繰り返してはならないという「原発公害根絶要求」です。しかし、安倍政権は、被害者と国民の要求に背き、今後のエネルギー政策の基本に原発推進政策を据え、停止中の原発の再稼働のみならず新たな建設計画中の原発の完成をも目指し、さらには原発輸出を国策として推進しつつあります。

私たちは、この福島の地から、全国各地で原発の再稼働を許さず、全ての原発の廃炉を実現し、原発のない社会を目指して闘っている人々に次の2点を踏まえてこの分科会への参加を呼びかけました。

第1に、福島県内の全ての原発の廃炉を求める県民運動と全国で脱原発訴訟を闘う「原告団」・「支援」の活動と脱原発を求める草の根の住民運動・国民運動のそれぞれの活動の経験を交流し、原発のない社会を目指す国民共同を求めて討議したい。

第2に、脱原発を闘う人々と福島の地元で「あやまれ、つぐなえ、なくせ原発・放射能汚染」をスローガンに掲げて闘う「原発公害訴訟原告団」と「支援」の活動との連帯を追求したい。

このような願いで実現した脱原発分科会は、全国各地から参集した参加者により大盛況のうちに閉会しました。

### 《当日のスケジュール、発言者》

開会あいさつ 実行委員会代表 小野寺利孝さん（弁護士）  
総合司会 弁護士広田次男さん・同 丸山幸司さん

第1部 パネルディスカッション — 脱原発をめぐる情勢と闘いの展望を考える

1 基調報告・問題提起

齊藤貴男さん（ジャーナリスト・『東京電力研究』排除の系譜）他）

— 「3・11フクシマ」の教訓と脱原発をめぐる現状と課題

2 脱原発国民運動の最前線からの報告と問題提起

1) 服部至道さん（首都圏反原発連合）

2) 伊東達也さん（原発問題住民運動全国連絡センター）

3) 桜井勝延さん（南相馬市長・脱原発をめざす首長会議）

4) 佐藤三男さん（福島県内の全ての原発の廃炉を求める会）

3 会場からの質問・意見を受けとめて 各パネラーによる討論

4 まとめ 齊藤貴男さん

第2部 第1部の討論を受けとめて — 裁判闘争の意義と展望

1 基調報告・問題提起

河合弘之さん（弁護士・脱原発弁護団全国連絡会共同代表）

— 脱原発訴訟の意義と闘いの現状・展望

2 脱原発訴訟原告団活動報告と問題提起

1) 小野有五さん（泊原発の廃炉をめざす会共同代表）

2) 大石光伸さん（東海第2原発訴訟原告団共同代表）

3) 蔦川正義さん（佐賀大学経済学部名誉教授、玄海原発訴訟原告団）

3 福島原発公害被害者訴訟の意義と脱原発の闘い

早川篤雄さん（福島原発避難者訴訟第1陣原告団長・原発事故の完全賠償させる会代表）

— 「あやまれ、つぐなえ、なくせ原発・放射能汚染」

4 全国各地の原告団・支援活動の経験交流と討論

5 まとめ — 河合弘之さん

閉会あいさつ 総合司会による分科会全体のまとめ

### ＜脱原発分科会実行委員会＞

【代表委員】小野寺利孝（弁護士）

【委員】板井 優・広田次男・望月賢司・丸山幸司（以上、弁護士）

伊東達也・早川篤雄・佐藤 三男（以上、原発事故の完全賠償させる会）

【事務局担当】望月賢司・丸山幸司・佐藤三男